

コンクリート・モルタル・ALC版等外壁面の塗替え塗装仕様

G-1 アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材 3回塗り

G-2 シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材 3回塗り

工程	塗料名	塗回数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材用シーラー	1	0.12~0.16	3時間以上	水道水 0~5	ウールローラー 吹き付け
	シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材用シーラー					
中塗り	アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材	1	0.80~1.00	3時間以上	水道水 1~3	砂骨ローラー
	シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材					
上塗り	アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材	1	0.20~0.40	-	水道水 10~20	ウールローラー
	シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材					

上記の各数値は全て標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-3 アクリル樹脂系非水分散形塗料(艶消し) 2回塗り

工程	塗料名	塗回数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	アクリル樹脂系非水分散形塗料(艶消し)	1	0.10~0.15	2時間以上	塗料用シンナー 10~20	はけ ウールローラー
上塗り	アクリル樹脂系非水分散形塗料(艶消し)	1	0.10~0.15	-	水道水 10~20	はけ ウールローラー

上記の各数値は全て標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

- G-4 1液形水系アクリル樹脂塗料 3回塗り
 G-5 1液形水系ポリウレタン樹脂塗料 3回塗り
 G-6 1液形水系シリコン樹脂塗料 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー 研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水系シーラー	1	0.10～0.16	2時間以上	水道水 0～5	はけ ウールローラー
	水系微弾性フィラー	1	0.30～1.30	3時間以上	水道水 0～10	砂骨ローラー ウールローラー
上塗り	1液形水系アクリル樹脂塗料	2	0.12～0.16	2時間以上	水道水 10～15	はけ ウールローラー
	1液形水系ポリウレタン樹脂塗料					
	1液形水系シリコン樹脂塗料					

- 注 1. 下塗りの種類の選定は旧塗膜の種類、劣化程度等により選定し、塗料メーカーの特記による。
 2. 上記の各数値は全て標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-7 2液形弱溶剤系ポリウレタン樹脂塗料 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー 研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	水系微弾性フィラー	1	0.30～1.30	3時間以上	水道水 0～5	砂骨ローラー ウールローラー
	1液形弱溶剤系シーラー	1	0.12～0.16	1時間以上	専用シンナー 0～10	はけ ウールローラー
上塗り	2液形弱溶剤系ポリウレタン樹脂塗料	2	0.12～0.16	2時間以上	専用シンナー 5～10	はけ ウールローラー

- 注 1. 下塗りの種類の選定は旧塗膜の種類、劣化程度等により選定し、塗料メーカーの特記による。
 2. 上記の各数値は全て標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-8 外装薄塗材E（砂壁状仕上げ）2回塗り

工程	塗料名	塗回数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水系シーラー	1	0.10~0.16	2時間以上	水道水 0~5	はけ ウールローラー
上塗り	砂壁状仕上げ材(リシン)	1 ∪ 2	1.10~1.60	—	水道水 10~20	吹付け

上記の各数値は全て標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-9 1液形水系フッ素樹脂塗料 3回塗り（キクスイ 水系ファインコートフッ素）

工程	塗料名	塗回数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水系弾性フィラー	1 ∪ 2	0.20~0.45	4時間以上	水道水 4.6~8.0	ウールローラー
			0.50~0.90		3.3~5.3	砂骨ローラー
	2液形水系エポキシ樹脂サーフェサー	1 ∪ 2	0.20~0.25	4時間以上	水道水 3.3~5.3	はけ ウールローラー エアレススプレー
上塗り	1液形水系フッ素樹脂塗料	2	0.11~0.20	2時間以上	専用シンナー 5~10	はけ ウールローラー

注) 1. 各数値はすべて標準のもので、被塗装物の状態、素地の状態、気象条件、施工条件等によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

☆ 各塗料メーカーの仕様に従い、施工上の要点及び注意事項を必ず厳守して施工する。

G-10 1液形弱溶剤系フッ素樹脂塗料 3回塗り (トウペ レベルフロン)

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー 研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水性微弾性フィラー	1	0.50~1.50	5時間以上	水道水 0~3	砂骨ローラー ウールローラー
	1液形弱溶剤系シーラー	1	0.11~0.14	24時間以上	専用シンナー 0~10	はけ ウールローラー
上塗り	2液形弱溶剤系フッ素樹脂塗料	2	0.11~0.13 0.15~0.17	16時間以上 5日以内	塗料用シンナー 5~10 10~20	はけ・ローラー エアレススプレー

☆ 各塗料メーカーの仕様に従い、施工上の要点及び注意事項を必ず厳守して施工する。

G-10 2液形弱溶剤系フッ素樹脂塗料 3回塗り (エスケー クリーンマイルドフッ素)

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗布量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・等、脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー 研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗浄で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水性反応硬化形フィラー	1	0.30~0.50	8時間以上	水道水 5~10	ウールローラー
			0.30~0.50		5~10	エアレススプレー
			0.80~1.50		1~5	砂骨ローラー
上塗り	2液形弱溶剤系フッ素樹脂塗料	2	0.12~0.14	3時間以上 14日以内	塗料用シンナー 5~10 10~20	はけ・ローラー エアレススプレー

☆ 各塗料メーカーの仕様に従い、施工上の要点及び注意事項を必ず厳守して施工する。

工 法

- i 巢穴、段差などがある場合、合成樹脂エマルジョン入りセメント系下地調整材で処理する。
- ii 単層弾性機能は、塗布量によって異なるので、所定の塗布量を塗装する。
- iii 単層弾性中塗りは、砂骨ローラーでくばり塗りを行い、次いでならし塗りした後、下から上へ模様むらの生じないように行う。
- iv 仕上げ模様は、施工時の温度、希釈率、塗付量などによって異なるので、あらかじめ試し塗りを行い条件を設定する。
- v 下塗りの水系微弾性フィラーの微弾性機能は、塗付量によって異なるので、所定の塗布量を塗装する。
- vi 下塗り水系微弾性フィラーは砂骨ローラーでくばり塗りを行い、次いでならし塗りした後、下から上へ模様むらの生じないように行う。

注意事項

- i 旧塗膜が弾性塗料および単層形弾性塗料で上塗りまたはベース塗り層に著しいふくれの発生している場合は再ふくれが発生する場合がありますので、旧塗膜を完全に除去する。
- ii 塗装場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上または換気が不十分で結露が考えられる場合は塗装を避ける。
- iii 外部の塗装中に降雨、降雪のおそれがある場合および強風時は塗装を避ける。
- iv 塗装時ならびに塗料の取り扱い時は、十分に換気を行い火気厳禁にする。
- v 吹付けの場合は、飛散防止のための養生を行う。建物の形状や施工部位、周辺的环境によっては飛散ダストによる汚れを生ずることがあるため注意が必要。
- vi 製品の安全に関する詳細な内容が必要な時には、製品安全データシート(MSDS)を参照する。